

開講年度	令和7年度	開講課程	博士後期課程
授業名	形態機能医学特別演習		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(システム神経生理学) シナプス伝達、中枢疾患 (統合分子生理学) 細胞イメージング (機能調節薬理学) イオンシグナル異常 (分子病理学) がん		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(システム神経生理学) 教授 小林克典、准教授 木村晃久、講師 井辺弘樹 (統合分子生理学) 教授 中田正範、准教授 廣野守俊、講師 稲葉秀文 (機能調節薬理学) 教授 西谷友重、講師 納富拓也、講師 陳 以珊 (分子病理学) 教授 江幡正悟、講師 及川恒輔、講師 中西雅子	
	薬		
授業の概要	システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、人体の機能や構造などに係る形態機能医学の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。		
到達目標	(システム神経生理学) シナプス伝達を中心とする中枢神経機能とその破綻としての疾患、及びそれらの研究手法を理解する。 (統合分子生理学) 生理学的実験主義の原理を理解・修得する。 (機能調節薬理学) 興奮性組織のイオンシグナル制御機構とその破綻による疾患に関し理解する。 (分子病理学) がん細胞の転移能亢進における分子メカニズムを明らかにする技術を修得し、遺伝子発現解析などを通じた治療標的の同定を行うことができる。		

授業計画	<p>(システム神経生理学) 分子からシナプス・回路を経て高次機能に至る中枢機能の階層的構造とその各段階の破綻によって生じる中枢疾患について、主に論文の精読と議論を通じて、体系的理解が達成されるよう指導する。(小林克典/木村晃久/井邊弘樹)</p> <p>(統合分子生理学) 生理学的研究手法を修得させ、実験動物等を用いてデータの収集を指導する。(中田正範/廣野守俊/稲葉秀文)</p> <p>(機能調節薬理学) イオンシグナル制御機構とその破綻による疾患 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構とその破綻による疾患に関し概説する。また最新の文献を読み、発表する機会を設ける。(西谷友重/納富拓也/陳以珊)</p> <p>(分子病理学) 形態学的情報・遺伝子発現に基づくがん細胞の形質の解析：がんの悪性化や転移に関する論文を読み、最新の研究動向を理解する。また、がん細胞の転移能亢進における分子メカニズムを明らかにする技術の修得を目指す。(江幡正悟/及川恒輔/中西雅子)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(システム神経生理学) 特に指定しない。</p> <p>(統合分子生理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(機能調節薬理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(分子病理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>